

教育研究業績書		
平成 28 年 5 月 1 日 氏名 木村 誠 印		
研究分野	研究内容のキーワード	
実験心理学	系列学習 比較認知科学 比較心理学	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ①臨床心理士と協働した対人スキル養成講座の実施	①平成 25 年度～平成 26 年度	社会的な場面での対人行動に問題を示す学生には、自己の不適切な言動への自覚が乏しいまま学生生活を過ごし、学外実習や就職活動の段階で困難に直面して、ようやく学生相談に繋がる場合も多い。自己の抱える問題への早期の気づきの機会の提供と、教職員による適切な介入の実現のため、臨床心理士と協働したコミュニケーション力、および対人マナーの養成講座をこれまでに 4 回実施している。
②石川-ルクセンブルク学生交流事業派遣教員	②平成 21 年度と平成 25 年度	石川県とルクセンブルク大公国との交流の深化を目的とした学生交流プログラムの派遣教員を 2 度務めた。本プログラムでは、夏にルクセンブルクの学生 3 名を受け入れ、冬に日本の大学生 3 名をルクセンブルクに派遣する。参加学生の選抜、ルクセンブルク学生受け入れプログラムの作成と実施、ルクセンブルク派遣学生の引率、派遣学生による報告会の指導などを行った。
③自治体および関係機関と連携した地域課題研究ゼミナール活動	③平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月 平成 25 年 11 月～現在に至る	学生の課題発見能力、問題解決能力を養成することを目的として、自治体および関連機関と連携した地域研究を実施している。平成 23 年度には小松市市民協働課と連携して男女共同参画社会形成に関する調査研究を行った。また、平成 25 年度からは小松市ふれあい福祉課その他 4 機関と連携して小松市バリアフリーマップの作成のためのフィールドワーク調査を行っている。

<p>④学生間の相互評価を成績評価へ導入する試み（学習理論に裏付けられた学生の成長を促す成績評価）</p> <p>⑤こまつ看護学校 非常勤講師（心理学）</p> <p>⑥授業のデジタルコンテンツ化と石川県民、石川県内の大学生への提供</p>	<p>④平成25年4月～平成25年8月</p> <p>⑤平成24年2月～平成25年10月</p> <p>⑥平成20年4月～平成25年8月</p>	<p>教育手法の改善に関する議論において、評価法の見直しは特に強く求められている。筆者は行動の変容に関する代表的理論であるオペラント条件づけの理論を学生への評価に導入することを着想し、学生間の相互評価を成績評価へ導入する試みを共通科目「日本語表現法」において平成22年度と平成25年度に実施した。また、本実践は石川県内の若手教員による研究会において発表した。</p> <p>看護師を目指す学生を対象として心理学の講義を担当した。各テーマについて二部構成の講義を行った。第一部では理論について、裏付けとなる実験の統計データを提示しながら解説を行い、第二部ではその理論の日常場面および看護の職場における応用について解説した。人間の行動の仕組み、行動の変容の仕組みについて科学的な視点で理解してもらうことで、ホスピタリティだけでなく、客観的な視点で患者を理解できる能力を備えた人材の育成を目指した。</p> <p>大学コンソーシアム石川が石川県民、および石川県内の大学生を対象に開講するいわかシティカレッジの講師として、「心の科学」、「心理学（学習と行動の変容）」、「学習と行動の心理学」を担当。金沢市内での講義はリアルタイムに石川県内の大学に配信され、遠方の学生でも受講可能であった。また、すべての講義はデジタルコンテンツ化され、受講生は自宅のパソコンから何度でも視聴可能であった。</p>
<p>2. 作成した教科書、教材</p>		
<p>3. 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>①平成25年度後期授業アンケート評価優秀教員</p>	<p>平成26年3月</p>	<p>科目履修学生を対象とした授業評価アンケートについて、平成25年度の後期において常勤教員の中で最も学生からの評価の高かった教員として表彰された。</p>

<p>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>①社会人教育プログラム講師</p> <p>②石川県小松市生涯学習課主催パソコン活用講座</p>	<p>平成 19 年度 (現在に至る)</p> <p>平成 20 年度～ 平成 23 年度</p>	<p>地域の住民を対象とした学内での公開講座を多数担当している。担当した講座はいずれも Microsoft Office のアプリケーションソフトの操作方法についてであった。受講生の習熟度に配慮してきめ細やかな指導に努めた。</p> <p>地域の住民を対象として、ワープロソフトの基礎的な操作法について、毎年 1 回それぞれ 5 日間の講座を担当した。2 名の TA 学生とともに一人一人の理解度を確認しながらのきめ細やかな指導に努めた。</p>
<p>5. その他</p> <p>①国際交流事業の実務担当者</p> <p>②石川県若手教員授業評価研究会幹事</p> <p>③学生相談センターの運営</p>	<p>平成 26 年 4 月 (現在に至る)</p> <p>平成 25 年 4 月 (現在に至る)</p> <p>平成 21 年 4 月 (現在に至る)</p>	<p>大学の国際化の推進のための業務に従事している。具体的には海外の大学との協定締結にかかる実務を担当。協定校との各種交渉、調整および協定書, MoU の作成など交流事業に関する全般的な業務に従事している。</p> <p>石川県内の大学、大学院、短期大学に勤務する若手教員で構成される授業研究会の幹事を務めている。本研究会では参加者各自の、および所属機関の教育力の向上を目的として、最新の教育手法の動向などについて石川県内で最新の教育方法を実践している若手教員を講師として互いのスキルアップを図っている。</p> <p>小松短期大学学生相談センターのセンター長として学生相談業務に従事。ハラスメント教育の実施、障がい学生の就学および就職支援、学生入学前からの出身高校、保護者との連携を行った。また、臨床心理士と協働でのコミュニケーション力養成講座を実施し、気になる学生の早期発見と介入に努めている。</p>

職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許		
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 ①小松市障害者自立支援協議会委員  ②小松市東陵校下連合町内会・東陵地区社会福祉協議会 アドバイザー  ③障がい者就労機会拡充補助金提案事業審査員  ④石川県立寺井高等学校 学校評議員	平成 21 年 4 月 (現在に至る)  平成 23 年 7 月 ～平成 24 年 3 月  平成 24 年 4 月 (現在に至る)  平成 25 年 4 月 (現在に至る)	小松市在住の障がい者にとって住みやすい街づくりを実現することを目的とした協議会において委員を務めている。これまでの筆者の実績としては、小松市内で障がい者を対象とした福祉施設の利用者を対象とした調査において結果の分析を報告書の執筆を 2 編担当している。  町内会で実施するアンケート調査について、高齢者にも回答しやすいアンケート項目の作成とデータ入力、データの解釈についての助言を行った。  補助金の交付にかかる審査員を務めている。本事業は小松市内で障がい者の就労支援をしている施設を対象に、賃金のアップを実現するための優れた取り組みに対して補助を行うものである。  石川県立寺井高等学校の学校評議員として、入学式、運動会、卒業式等の学校行事へ出席している。また、評議員会へ出席し、学校の改善のために地域の大学教員の立場から意見を述べている。
4. その他 ①北陸心理学会奨励賞	平成 25 年 11 月	「北陸心理学会奨励賞」は受賞年度において満 35 歳以下の若手研究者を対象とし、北陸心理学会における一定以上の研究活動に対して表彰するものである。筆者は同奨励賞の第一回表彰者として表彰された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 小松市みんなのバリアフリーマップ+	共著	平成27年3月	地域配布用の冊子	障がい者、妊婦、高齢者等、行動に何らかのサポートや配慮が必要な方に対し、訪問先のバリアフリー情報を事前に提供することを目的として小松市のバリアフリー情報を掲載した冊子を制作し、地域に配布した。施設のバリアフリー情報だけでなく、人的配慮についても項目を設けた。店舗や施設の方の思いやりや気づかいが伝わるように工夫したところに本冊子の独自性があった。 (共著者：小松市市民福祉部、小松市自立支援協議会日中支援委員会、NPO 法人いのちにやさしいまちづくりぼぼぼねっと、小松短期大学バリアフリー研究会)
(学術論文) 1 臨床心理士と大学教員の協働によるコミュニケーションスキル育成プログラムの有効性の検討	共著	平成27年10月	小松短期大学論集第22号 pp.35-46	自身のコミュニケーション能力についての自覚を促し、改善につながるプログラムを大学入学後早期に実施し、自己肯定意識および自己意識の変化を定量的に測定した。また、臨床心理士と大学教員が協働して実施したことにより、気になる学生の早期発見と迅速な対応の検討が実現した。 (共著者：木村誠、濱田里羽)
2.アカハライモリにおける同時視覚弁別学習に関する動機づけ操作の検討	共著	平成25年7月	心理学の諸領域第2巻 pp.21-29	食餌性の報酬が有効ではないアカハライモリの実験においては、餌以外に有効な報酬の特定が必須である。本研究では、正反応時の水への着水の時間間隔と体表に付着した水分の脱水手続の時間間隔がアカハライモリの動機づけに影響を与えることを明らかにした。

<p>3.アカハライモリ ( <i>Cynops pyrrhogaster</i> ) における水強化を用いた同時視覚弁別学習</p>	<p>共著</p>	<p>平成 25 年 7 月</p>	<p>動物心理学研究第 63 巻 pp.87-93</p>	<p>(共著者：木村 誠、谷内 通)</p> <p>事象の順序関係についての情報処理能力の進化的起源を解明する上で、系統発生において哺乳類に分岐する以前の両生類研究の重要性が指摘されてきた。一方で、両生類は学習実験が極めて困難であることから、これまでわずかしか検討されていなかった。本研究では両生類の学習実験において有効な報酬の特定と同時視覚弁別学習に成功し、系列学習研究への展開につながる成果が得られた。</p> <p>(共著者:木村 誠、上野 糧正、谷内 通)</p>
<p>4.男女共同参画社会形成に関する地域・社会特性の検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 11 月</p>	<p>小松短期大学地域創造研究所年報第 3 巻 pp.37-42</p>	<p>小松市からの地域課題の提案を受けて行った研究の成果を報告した。若年層と中高年層における地域活動への参画に関する意識特性、性役割意識の比較を行った結果を報告した。さらに、幼少期から両親の行動を観察することで、特定の性役割意識の獲得が促進される可能性について分析を加えた結果を報告した。</p> <p>(共著者：出仙 雄也、根塚 直人、村井 星捺、木村 誠) "</p>
<p>5.改良型 Hill 迷路におけるラット ( <i>Rattus norvegicus</i> ) の系列位置学習</p> <p>：</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 7 月</p>	<p>動物心理学研究第 62 巻 pp.11-19</p>	<p>改良型 Hill 迷路を用いた系列学習課題を用いて、ラットの学習方略を検討した。複数の系列を並行学習させた後に系列学習の転移を検証した。実験の結果、ラットの系列学習方略が項目間連合の形成によらないことが強く示唆された。</p> <p>(共著者：谷内通、石坂憲寿、木村 誠、上野糧正) "</p>

<p>(その他)</p> <p>1.障がいを持つ人およびその家族との協働によるバリアフリーマップの開発と Web サービス展開の検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 2 月</p>	<p>平成 27 年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集 pp.28-30</p>	<p>大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール支援事業の助成を受けて実施した小松市のバリアフリーマップの制作活動について報告した。利用者の利便性を考慮して Web 上で事業を展開したこと、設備のバリアフリー情報だけでなく、店舗のスタッフからのメッセージや人的補助の情報を掲載したところに独自性があった。 (共著者：木村ゼミ)</p>
<p>2.小松短期大学からの学生派遣について</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 3 月</p>	<p>2015 年度アンコール遺跡整備公団インターンシップ報告書 pp.7-10</p>	<p>平成 27 年度に実施したカンボジア、アンコール遺跡でのインターンシップについて、実務担当および引率者として寄稿した。学生の動機づけを高め、参加を決意させるための教員の関わりの重要性とインターンシップ終了後のフォローの重要性について述べた。 (共著者:加藤和夫、塚脇真二、Hang Peou、木村誠、荒木祐二、堂満華子、吉野博、インターンシップ参加学生 15 名、チューター2名)</p>
<p>2.男女共同参画社会形成に関する地域・社会特性の検討</p>	<p>単著</p>	<p>平成 23 年 12 月</p>	<p>平成 23 年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集 pp.13-17</p>	<p>小松市からの地域課題の提案を受けて行った研究の成果を報告した。若年層と中高年層における地域活動への参画に関する意識特性、性役割意識の比較を行い、今後の男女共同参画推進にかかる施策の方針について提言を行った。</p>
<p>3.小松市障害者福祉サービス利用者における就労及び住まいにおける現状とニーズの把握(第二報)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 23 年 3 月</p>	<p>成果報告書</p>	<p>小松市における障害者福祉サービス利用者の実態を把握することを目的として質問紙調査を実施した。特定のニーズの背景に存在する要因を詳細に検討し、今後の望ましい支援の方向性を具体的に示した。 (共著者:小松市障害者自立支</p>

				援協議会) (本人担当 : データ 分析、報告書執筆) "
--	--	--	--	----------------------------------



